

# 重包装クラフト紙袋需要見通し

2026年（暦年）

全国クラフト紙袋工業組合

## 2026年重包装クラフト紙袋の需要見通しについて

昨年（2025年）の日本経済は、物価高騰や円安基調が続く中で、個人消費の回復が鈍く、製造業を中心とした生産活動も力強さを欠く状況となりました。企業収益の改善が限定的であったことに加え、原材料価格や物流コストの上昇が重くのしかかり、幅広い産業で慎重な姿勢が続いた一年でした。海外においても、中国の生産余力や欧米の景気減速、地政学リスクの高まりなど、不透明感が一段と強まり、国内外ともに先行きの見通しが立ちにくい環境が続きました。ロシア・ウクライナ情勢や中東地域の緊張など、国際情勢の不安定さも依然として解消されず、外需・内需ともに力強さを欠く状況が続いたと言えます。一方で、インバウンド需要は堅調に推移し、観光関連分野では一定の下支え効果が見られましたが、全体としては景気回復の勢いに欠ける一年となりました。

こうした環境下、昨年のクラフト紙袋の出荷数量は、当組合の集計では前年比減少となり、主要部門の多くが前年を下回りました。特に「化学薬品」「飼料」「米麦」「合成樹脂」などの基幹部門での減少が大きく、クラフト紙袋の需要は長期的な減少傾向に加え、近年はそのスピードがさらに加速している状況にあります。人口減少や少子高齢化、包装容器の大型化・バラ化の進行、食品ロス削減の取り組み、さらには物流・労務環境の変化など、社会構造の変化が紙袋需要に継続的な影響を及ぼしており、これらの要因は今後も続くものと見込まれます。また、産業界全体で省力化・効率化が進む中、包装形態の見直しや設備更新の動きも広がっており、当業界の出荷数量に対する下押し圧力は引き続き強いものと考えられます。

さて、2026年の紙袋需要見通しは、前年からさらに減少し、全体では9億7百万袋（前年比98.0%）と予測いたしました。インバウンド需要の堅調さや一部部門での増加要因はあるものの、全般的には先行きの不透明感が強く、前年を下回ると見込まれる部門が多くなっています。従来より需要見通しの策定にあたっては、関連団体からの資料に加え、組合員からのヒアリングや過去の出荷実績を踏まえて取りまとめておりますが、本年も紙袋需要に影響を及ぼす要因が多岐にわたり、予測の難しさが増していることをご理解いただきたく、2026年重包装クラフト紙袋需要見通しの作成にあたり、ここに申し添えます。

## 2024年・2025年実績及び2026年予測（暦年）

全国クラフト紙袋工業組合

年産別 部門別	2024年実績		2025年実績			2026年予測		
	紙袋数	原紙量	紙袋数	前年比	原紙量	紙袋数	前年比	原紙量
	(千袋)	(t)	(千袋)	(%)	(t)	(千袋)	(%)	(t)

### (1) 窯業、鉱業、建材部門

セメント	38,418	3,694	36,428	94.8	3,481	34,800	95.5	3,320
プラスター	5,581	717	5,300	95.0	671	5,000	94.3	620
石 灰	11,030	1,483	10,970	99.5	1,477	10,810	98.5	1,450
その他鉱産物	45,212	6,841	43,832	96.9	6,594	41,800	95.4	6,270

### (2) 農水産物部門

米 麦	120,517	23,645	116,687	96.8	23,022	113,200	97.0	22,350
精 麦	3,557	558	3,351	94.2	518	3,250	97.0	500
製 粉	142,833	20,410	143,150	100.2	20,472	141,720	99.0	20,270
砂糖・甘味	57,597	8,610	60,891	105.7	9,096	60,920	100.0	9,100
塩	20,742	2,849	20,446	98.6	2,793	20,360	99.6	2,780
澱 粉	17,151	3,166	17,530	102.2	3,233	17,530	100.0	3,230
その他農水産物	37,997	8,091	40,033	105.4	8,457	40,000	99.9	8,440
その他食品	57,762	9,833	57,145	98.9	9,678	57,140	100.0	9,670
飼 料	69,932	11,075	65,362	93.5	10,328	65,000	99.4	10,180
(うちペットフード)	(4,220)	(786)	(4,485)	106.3	(811)	(4,500)	100.3	(800)
油 粕	2,008	325	2,021	100.6	330	1,900	94.0	310

### (3) 肥料、合成樹脂、化学薬品部門

肥 料	3,758	589	3,044	81.0	453	3,000	98.6	450
化学薬品	83,737	17,029	78,944	94.3	16,065	75,000	95.0	15,230
合成樹脂	143,966	27,636	141,803	98.5	27,268	135,000	95.2	25,920

### (4) その他部門

ご み	3,271	165	2,992	91.5	152	2,930	97.9	150
そ の 他	75,277	10,528	76,900	102.2	10,803	78,500	102.1	10,990
合計(1)～(4)	940,346	157,244	926,829	98.6	154,891	907,860	98.0	151,230

◆セメント（混和剤含む）

		2024年実績	2025年実績	2026年予測
国内	出荷数量（千t）	32,995	30,864	30,864
	包装比率（％）	2.91	2.91	2.82
	紙袋対象数量（千t）	960	898	870
	紙袋数（千袋）	38,418	36,428	34,800
輸出・輸入	出荷数量（千t）	輸出 8,068	8,568	8,568
	包装比率（％）	輸入 17	35	35
計	出荷数量（千t）	-	-	-
	包装比率（％）	41,080	39,467	39,467
	紙袋対象数量（千t）	2.34	2.28	2.20
	紙袋数（千袋）	960	898	870
		38,418	36,428	34,800

	2024年実績	2025年実績	2026年予測
原紙量（t）	3,694	3,481	3,320
1袋当り平均重量（g）	96.2	95.6	95.5

（予測根拠）

- 2025年は、災害復興需要により一部に増加した地域もあったが、国内の物価・燃料・資材費の高騰の影響を受けたことや、業界の人員不足等による工期の長期化によって紙袋出荷実績も前年比94.8%と大幅減少した。
- 2026年のセメントの国内需要は、防災・減災及び国土強靱化対策、防災関連工事での関連需要、都市再開発事業による設備投資の増加など、中期的には一定水準の需要が見込まれる。一方で、働き方改革による工事の長期化、建設コスト上昇、住宅ローン金利上昇など、近年の工事環境変化はセメントの需要動向に影響を与えられ、回復は期待出来ないものと想定される。紙袋需要は前年比95.5%、34,800千袋と予測する。

## ◆ プラスター

	2024年実績	2025年実績	2026年予測
生産数量 (千t)	124	121	119
紙袋率 (%)	90	90	90
紙袋対象数量 (千t)	112	109	107
1袋当り内容量 (kg)	20	20	20
1袋当り重量 (g)	128	128	128
紙袋数 (千袋)	5,581	5,300	5,000
原紙量 (t)	717	671	620

(予測根拠)

- 資材価格の高騰や人出不足など厳しい環境が続く中、コロナ収束後は徐々に回復基調にはあった。しかし、2025年6月に義務化された建設現場の熱中症対策（WBGT28℃以上または気温31℃以上の環境下では、連続1時間以上または1日4時間を超えた作業は対策が必須）により作業効率への影響が大きくなっている。
- 住宅着工件数は7%程度減少しており、少子化や物価高騰の流れから、住宅関連業界は新築注文住宅よりもリフォームや建売住宅へ比重を移しつつある。こうした状況から、紙袋需要も減少傾向は続くと考えられ、2026年の出荷数量は前年比94.3%、5,000千袋と予測する。

## ◆ 石 灰

	2024年実績	2025年実績	2026年予測
生産数量 (千t)	4,902	4,857	4,800
紙袋率 (%)	4.5	4.5	4.5
紙袋対象数量 (千t)	221	219	216
1袋当り内容量 (kg)	20	20	20
1袋当り重量 (g)	134	134	134
紙袋数 (千袋)	11,030	10,970	10,810
原紙量 (t)	1,483	1,477	1,450

(予測根拠)

- 2026年の需要は、建築用、農業用ともに下振れ予想されていることから、紙袋需要も同様に減少傾向と考えられる。2026年の出荷数量は前年比98.5%、10,810千袋と予測する。

◆その他鉱産物

	2024年実績	2025年実績	2026年予測
生産数量 (千t)	2,055	1,990	1,900
紙袋率 (%)	55	55	55
紙袋対象数量 (千t)	1,130	1,095	1,045
1袋当り内容量 (kg)	25	25	25
1袋当り重量 (g)	149	150	150
紙袋数 (千袋)	45,212	43,832	41,800
原紙量 (t)	6,841	6,594	6,270

(予測根拠)

- 2025年の紙袋出荷数量は、前年比96.9%と減少した。
- 建設及び工事着工は、依然として人出不足に伴う物資・人件費の高騰などの影響を受け、減少傾向が続いている。また、個人消費も諸物価高騰や金利上昇により低迷しており、住宅着工件数も回復していない。こうした状況から、紙袋需要も引き続き減少すると考えられ、2026年の紙袋需要は前年比95.4%、41,800千袋と予測する。

## ◆米 麦

	2024年実績	2025年実績	2026年予測
紙袋数 (千袋)	120,517	116,687	113,200
1袋当り重量 (g)	196.2	197.3	197.4
原紙量 (t)	23,645	23,022	22,350
前年比 (%)	95.4	96.8	97.0

(2026年予測算出基礎)

1) 2025年産米需給見通し生産量	7,109千ト		
収穫量実績見込み	主食用	非主食用	合計
	7,477千ト	315千ト	7,792千ト
2) 2026年産米受給見通し適正生産量	7,110千ト		
収穫量予測(作況100)	主食用	非主食用	合計
	7,110千ト	520千ト	7,630千ト

(予測根拠)

- 2025年産用米麦袋の出荷は前年比96.8%、3,830千袋減の116,687千袋となった。  
また、2025年産米の収穫量見込と紙袋出荷数を比較すると、紙袋比率は46.8%となる。
- 農林水産省は、2026年産主食用米等の需要見込みを711万トと設定している。  
さらに、2026年産米の非主食用米収穫量は520千トと見込まれており、総収穫量は前年より減少する見通しである。
- 容器のバラ流通化が今後も進展すると考えられることから、2026年の紙袋需要は前年比97.0%、113,200千袋と予測する。

## ◆精 麦

	2024年実績	2025年実績	2026年予測
生産量予測 (千t)	207	198	195
紙袋率 (%)	34.4	33.8	33.3
紙袋対象数量 (千t)	71	67	65
紙袋数 (千袋)	3,557	3,351	3,250
1袋当り内容量 (kg)	20	20	20
1袋当り重量 (g)	157	155	155
原紙量 (t)	558	518	500

(予測根拠)

- 年々自家配合から配合飼料移行への流れと、バラ化の増加、飼料用の畜産農家の高齢化が進み、出荷の減少傾向は続いている。2026年の紙袋需要は前年比97.0%、3,250千袋と予測する。

## ◆ 製 粉

	2024年実績	2025年実績	2026年予測
紙 袋 数 (千袋)	142,833	143,150	141,720
1 袋 当 り 重 量 ( g )	142.9	143.0	143.0
原 紙 量 ( t )	20,410	20,472	20,270

(予測根拠)

### ● 2025年の状況

製粉袋の2025年の出荷数量は、前年比100.2%、317千袋増の143,150千袋となった。

人口減少・少子高齢化による消費減少や、小麦粉二次加工者の寡占化によるバラ出荷の増加が見られた一方、米価高騰による小麦粉への移行やインバウンド需要の増加が寄与し、出荷は増加した。

### ● 2026年状況見通し

- ・食品ロス削減の定着 (±0%)
- ・人口減少・少子高齢化が進行(日本人人口▲0.49%)
- ・1人当たりの小麦粉消費量は横ばい (±0%)
- ・小麦粉二次加工業者の寡占化によりバラ出荷の増加 (▲0.50%)

以上を踏まえると、紙袋の使用量は微減と想定する。

### ● 紙袋需要予測

2026年の紙袋需要は前年比99.0%、141,720千袋と予測する。

◆砂糖・甘味

	2024年実績	2025年実績	2026年予測
1. 砂糖消費量			
1. 分蜜糖	1,742	1,747	1,750
2. 含蜜糖	35	39	36
合 計 (千 t)	1,777	1,785	1,786
2. 砂糖生産量			
1. 精製糖 (輸入)	1,166	1,120	1,145
2. 甘しゅ糖 (鹿児島・沖縄)	128	144	143
3. ビート糖 (北海道)	447	540	487
合 計 (千 t)	1,749	1,814	1,783
3. 紙袋数量			
1. 紙袋数量 (千袋)	57,597	60,891	60,920
2. 前年比 (%)	97.9	105.7	100.1
3. 1袋当り重量 (g)	149.5	149.4	149.4
4. 原紙量 (t)	8,610	9,096	9,100

(予測根拠)

- 本年産ビート糖については、作付面積が前年より減少(▲1.8%)したうえ、春先の天候不良による初期育成の遅れや夏場の高温・干ばつ、秋以降の高温などの影響により根中糖分が低下した。その結果、ha当たりの収量は平年より多かった前年を下回る見込みで、供給量は487千ト(対前年▲10.0%)と見通されている。さとうきびについては、収穫面積が前年より増加(+1.1%)した。6月までの少雨や、一部地域による台風の被害があったものの、総じて平年を上回る育成が見込まれ、供給量は143千ト(対前年▲0.4%)の微減と予測される。これらを踏まえ、砂糖の国内供給量は630千ト(対前年▲7.9%)と見通されている。
- 砂糖の需要は、インバウンド需要の増加による押上効果が期待されるものの、物価高、低甘味嗜好、人口減少などの影響も想定される。総合的に判断し、2026年の紙袋需要はほぼ前年並みの100.1%、60,920千袋と予測する。

◆ 塩

	銘 柄	2025年実績		2026年予測	
		紙袋数 (千袋)	原紙量 (t)	紙袋数 (千袋)	原紙量 (t)
国内塩	センター食塩、並塩 25kg	40	6	40	6
	食塩 5kg 外装袋	1,600	160	1,600	160
	食塩 1kg 外装袋	240	36	230	35
	業務用自主取引塩 25kg	15,710	2,428	15,690	2,425
外国塩	業務用 25kg袋	2,856	163	2,800	160
合 計		20,446	2,793	20,360	2,780

(予測根拠)

- 2025年の塩の国内需要は、値上げによる業務用塩ユーザーの塩分使用量が減少傾向となったほか、家庭での漬物づくりや家庭内調理の減少、さらに減塩志向の広がりも重なり、出荷量は減少した。これに伴い、紙袋の出荷量も前年比98.6%と減少した。
- 2026年は、農水産物の収穫量、漁獲量にも左右される面はあるものの、国内の人口減少、少子高齢化、食習慣の変化といった影響は引続き続くと考えられる。これらを踏まえ、2026年の紙袋需要は前年比99.6%、20,360千袋と予測する。

◆ 澱 粉

	2024年実績	2025年実績	2026年予測
紙 袋 数 (千袋)	17,151	17,530	17,530
1袋当り重量 (g)	185.5	184.4	184.4
原 紙 量 (t)	3,166	3,233	3,230

(予測根拠)

- 2025年は大阪万博の効果もあり人流が増加し、清涼飲料向けおよびビール類向けが増加した。また、加工食品向けも堅調に推移したことから、製品出荷に伴う製紙・段ボール向けの需要も回復し、紙袋出荷数量は前年比102.2%、17,530千袋となった。
- 2026年も昨年同様に猛暑が予想され、澱粉の約7割を占める食品用途のうち、飲料関係は堅調に推移すると見込まれる。一方、加工食品関連は減少傾向が続くと予想される。また、本年は例年以上に大型連休が取りやすい日並びであり、旅行需要の高まりが期待されるほか、国内では名古屋でアジア競技会が開催され、海外でもスポーツイベントが多く、人流増加が見込まれる。これらを踏まえ、2026年の紙袋需要は、前年比100%の17,530千袋と予測する。

### ◆その他農水産物

	2024年実績	2025年実績	2026年予測
紙袋数 (千袋)	37,997	40,033	40,000
1袋当り重量 (g)	213	211	211
原紙量 (t)	8,091	8,457	8,440
前年比 %	68.6	105.4	99.9

(予測根拠)

- その他農水産物は、豆類、雑穀、水産物、フィッシュミール、ビートパルプ、馬鈴薯など多岐にわたり、実態把握が難しい分野である。
- 人口減少、温暖化による異常気象、労務費・材料価格の高騰、農家高齢化による離農など、マイナス要因は多い。一方で、2025年主食用米は前年の不足感を受けて大幅増産となり在庫が回復したため、2026年産は過剰生産による価格下落を避けるため生産調整が行われる見通しである。その結果「水田フル活用」の一環として、大豆や雑穀への転作が一部で行われるものと考えられる。これらを踏まえ、2026年の紙袋出荷数量は前年並みの40,000千袋と予測する。

### ◆その他食品

	2024年実績	2025年実績	2026年予測
紙袋数 (千袋)	57,762	57,145	57,140
1袋当り重量 (g)	170.2	169.3	169.3
原紙量 (t)	9,833	9,678	9,670

(予測根拠)

- その他食品は、米粉・パン粉・コーヒーなど用途が多岐にわたり、小さな波の増減が見られる分野である。
- 2026年は、台湾有事をめぐる国会答弁を受けて、中国政府が日本への渡航自粛を呼びかけたことで、中国人観光客が大幅に減少すると予想されている。しかし、日本経済全体への影響は限定的との見方が強い。内需を中心に回復が見込まれる一方、食料・資源・エネルギー価格の高騰が影響し、先行きには不透明感が残る。総合的に判断し、2026年の紙袋出荷数量は前年比100%、57,140千袋と予測する。

## ◆飼 料

		2024年実績	2025年実績	2026年予測
紙 袋 数	(千袋)	69,932	65,362	65,000
1袋当り重量	(g)	158.4	158.0	156.6
原 紙 量	(t)	11,075	10,328	10,180

### ◎ 2025年実績

	出荷数量 (千t)	前年比 (%)	紙袋率 (%)	紙袋対象 (千t)	紙袋数			原紙量	
					(千袋)	増減	前年比 (%)	(t)	前年比 (%)
配混合飼料	23,851	99.0	6.2	1,479	51,745	-1,464	97.2	8,089	97.4
養魚用飼料	246	91.4	92.4	227	7,914	-3,275	70.7	1,237	70.3
その他飼料	168	101.7	20.4	34	1,218	-96	92.7	191	86.4
ペットフード					4,485	265	106.3	811	103.2
計	24,265	100.3		1,740	65,362	-4,570	93.5	10,328	93.3

#### (分析結果)

- 2025年の配混合飼料の出荷数量は悪化して、例年クリアしていた24,000千tを下回った。紙袋の出荷数量は、51,745千袋(対前年比97.2%)で、袋数にして1,464千袋の大幅減となった。畜産飼料は離農が止まらず、使用量は減少傾向にあり、フレキシブルコンテナバックやバラでの出荷比率が年々増加していることが減少要因と考えられる。
- 水産用配合飼料については、ここ数年、在稚が少ない状況が続いている。輸入が主となる魚粉は円安と世界的な需要増により高値が続きその影響を受け、紙袋の出荷数量も7,914千袋、対前年比70.7%、袋数にして3,275千袋の大幅減となった。
- ペットフードは昨年の反動もあり増加したものの、全体の袋数は前年比93.5%、4,570千袋の大幅な減少となった。

### ◎ 2026年予測

	出荷数量 (千t)	前年比 (%)	紙袋率 (%)	紙袋対象 (千t)	紙 袋 数 (千袋)			原紙量	
					出荷数	増減	前年比	(t)	前年比
配混合飼料	23,600	98.9	6.0	1,420	51,500	-245	99.5	8,000	98.9
養魚用飼料	240	97.6	93.0	220	7,800	-114	98.6	1,200	97.0
その他飼料	160	95.2	20.0	30	1,200	-18	98.5	180	94.2
ペットフード					4,500	15	100.3	800	98.6
計	24,000	98.9		1,670	65,000	-362	99.4	10,180	98.6

#### (予測根拠)

- 配混合飼料・養魚資料ともに、数量が回復する兆しは見られず、2026年も減少が続くと予測される。ペットフードについては、ほぼ前年並みの4,500千袋と見込まれる。
- 2026年飼料部門の紙袋需要は、前年比微減の99.4%、65,000千袋と予測する。

## ◆油 粕

	2024年実績	2025年実績	2026年予測
紙袋数 (千袋)	2,008	2,021	1,900
1袋当り重量 (g)	162	163	164
原紙量 (t)	325	330	310

(予測根拠)

- 2026年の油粕生産量は2025年とほぼ同等の3,550千トンを見込まれる。
- バラ化の進行やポリ袋への切り替えが進んでおり、肥料向けを中心に紙袋需要の減少が続くと考えられる。紙袋対象数量は38.0千トン(紙袋率1.07%)、1袋当たり内容量20kg換算で1,900千袋(前年比94.0%)と予測される。
  - ・ 2026年の生産量予測 : 3,550千トン
  - ・ 紙袋対象数量(紙袋率1.07%) : 38.0千トン(3,550千トン×1.07%)
  - ・ 2026年紙袋需要予測(1袋当たり内容量20kg) : 1,900千袋(38.0千トン÷20kg)
  - ・ 原紙量(1袋当たり重量164g) : 312トン(1,900千袋×164g)

## ◆肥 料

	2024年実績	2025年実績	2026年予測
紙袋数 (千袋)	3,758	3,044	3,000
1袋当り重量 (g)	149	149	149
原紙量 (t)	589	453	450

(予測根拠)

- 2025年の紙袋出荷実績は対前年比81.0%と大幅に減少した。米価高騰による作付け面積の拡大が期待されたが、肥料価格の高止まりによる使用量の減少と、包装容器の大型化への進行傾向が顕著であることにより紙袋需要が大幅に減少した。
- これらの傾向は変わらないものと見込まれ、2026年の紙袋需要は前年比98.6%、3,000千袋と予測する。

## ◆化学薬品

	2024年実績	2024年実績	2025年予測
紙袋数 (千袋)	83,737	78,944	75,000
1袋当り重量 (g)	203	203	203
原紙量 (t)	17,029	16,065	15,230

(予測根拠)

- 2025年の対前年出荷実績は、94.3%と大きく減少した。
- 国内では物価高騰が続き、個人消費マインドの改善要素は乏しい。大企業製造業も景況感の持ち直しと低下を繰り返しており、改善の兆しは見えにくい状況である。海外では、中国製品の余剰在庫の影響が続いており、この傾向は当面継続するとみられる。
- こうした環境から、化学薬品の紙袋需要は引続き減少傾向が続くと考えられる。2026年の紙袋需要は前年比95.0%、75,000千袋と予測する。

## ◆合成樹脂

	2024年実績	2025年実績	2026年予測
紙袋数 (千袋)	143,966	141,803	135,000
1袋当り重量 (g)	192	192	192
原紙量 (t)	27,636	27,268	25,920

(予測根拠)

- 2025年の紙袋出荷は、対前年比98.5%と減少した。
- 国内では、車両生産が1～6月は好調であったものの、7月以降は厳しい状態が続き、他産業においても改善の兆しは乏しかった。海外では、中国の生産余剰分がアジア圏へ輸出され、その影響を受けて減少した。
- 2026年も国内では円安傾向と人材不足による物価高騰が続き、個人消費の落ち込みや製造業の生産減は避けられないものと考えられる。輸出についても、中国製品の影響が継続すると見込まれ、改善要因は乏しい。これらを踏まえ、2026年の紙袋需要は前年比95.2%、135,000千袋と予測する。

## ◆ご み

	2024年実績	2025年実績	2026年予測
紙袋数 (千袋)	3,271	2,992	2,930
1袋当り重量 (g)	51.2	50.8	51.2
原紙量 (t)	165	152	150

(予測根拠)

- 2025年の紙芥袋出荷数量は、前年の価格改定の影響を受け、前年比91.5%、2,992千袋となった。紙芥袋は、医療・介護施設など特定用途向けが中心であり、ほぼ固定的な需要構造となっている。
- 2026年も大きな変動は見込まれず、紙袋需要は前年比98.0%、2,930千袋と予測する。

## ◆そ の 他

	2024年実績	2025年実績	2025年予測
紙袋数 (千袋)	75,277	76,900	78,500
1袋当り重量 (g)	139.9	140.5	140.0
原紙量 (t)	10,528	10,803	10,990

(予測根拠)

- この分野の用途が多岐にわたり、内容把握が非常に困難である。ここ数年は年によりばらつきがあるものの、2025年は、年間を通して大きな落ち込みはなく推移し、紙袋出荷数量は前年比102.2%となった。
- 2026年は、物価高騰が続くと考えられる一方、インバウンド需要は引続き好調を維持すると見込まれる。また、連休が確保しやすい日並びであることや、賃金の上昇も維持されるものと推定される。これらを踏まえ、紙袋需要は前年並みに増加し、前年比102.1%、78,500千袋と予測する。